

論壇

2%の物価目標先送り

日本銀行が2%の物価目標の実現を先送りした。2013年の4月に、2年で2%のインフレ率にまでもっていくと目標を設定したが、残念ながら3年半近くたった今でも、インフレ率はゼロ周辺を動いている。

もっとも、この間にまったく成果がなかったわけではない。13年に日本銀行が大胆な金融緩和政策を打ち出したから、しばらくは物価が大きく動いたのだ。ただ、その後の石油価格の大幅下落や、世

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

界経済の景気悪化などの影響があつて、物価上昇率はじわじわ下がつてしまった。

それだけ日本のデフレは厳しいと言わざるをえない。日本のデフレが深刻であるということを見れば、日本の名目GDPの

1997年から日本の名目GDPは毎年少しずつ下がつていった。経済が成長していなかったわけではない。実質の成長率はわず

9兆円であるので、19年たつてもまだ日本のGDPは過去最高よりも低くなつてきているのだ。

1997年から日本の名目GDPは毎年少しずつ下がつていった。経済が成長していなかったわけではない。実質の成長率はわず

かながらプラスの年が多かった。ただ、物価や賃金が下がり続けていたの、貨幣価値で評価した名目GDPは下がり続けたのだ。小泉改革などの成果もあり、リーマン・ショック前にはこの名目GDPは少しづつ上がり始めていた。

デフレ脱却 正念場

数字を見れば十分だ。名目GDPとは、貨幣価値で見た日本経済の規模のことと考えればよい。この名目GDPがもっとも高い数値となつたのは、1997年のことである。当時の数値は523兆円で

2015年の数値が49

ただ、リーマン・ショックと東日本大震災でまた大幅に下がり、2011年には472兆円まで下がってしまったのだ。

12年以降は、アベノミクスの成果もあり、名目GDPは少しずつ上昇を続けているが、いまだに過去の最高水準にまで戻っていないのだ。国民は、こうした状況をずっと見てきた。だからデフレマインドを強くもっている。物価や賃金はそう簡単には上がらない。そう思っている人が多い。だから、物価もなかなか上昇しないのである。

粘り強い政策継続必要
残念ながら、短期間でデフレを払拭する特効薬はないようだ。粘り強くデフレ脱却の政策を続けていかなければいけない。一部には、デフレのままではいけないか、という人もいる。しかし、名目GDPが減り続けている中では、政府の税収も落ち続け、財政運営も難しい。何よりも、賃金が下がっていくことは、国民の生活を直撃してしまう。

デフレが続くので、将来への不安が増して、国民は支出を抑える。企業も投資に消極的になる。これがますます景気を悪化させ、デフレが継続することになる。デフレの罠と呼ばれる状況だ。この罠から抜け出せるかどうか、正念場に

来ているのだ。

粘り強い政策継続必要

残念ながら、短期間でデフレを

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。